

みなみ み と ざか い せき  
南 御 堂 坂 遺 跡

2013

本庄市教育委員会

## 序

本庄市は、かつて中山道一の繁栄を誇った宿場町として、また、国学者塙保己一誕生の地として広く知られるところです。そうした歴史的な背景と文化的風土を持つ本庄市は、また多くの埋蔵文化財にも恵まれ、市内には旧石器時代から近代に至るまでのさまざまな遺跡が分布しています。

本書は本庄市日の出3丁目に所在する南御堂坂遺跡の発掘調査成果を記録した報告書です。南御堂坂遺跡は本庄台地の北縁に立地する集落遺跡と考えられてきましたが、これまで発掘調査が行われたことがなく、集落が形成されていた時期は不明のままとなっていました。今回の発掘調査で、古墳時代後期の住居跡2棟が発見され、南御堂坂遺跡の成立年代を解明するうえで重要な資料となりました。また、南御堂坂遺跡の南西側には、御堂坂古墳群が分布していますが、今回の調査で明らかになった南御堂坂遺跡に居住した人々が、御堂坂古墳群の造営者であった可能性も考えられるようになりました。

本書に報告したような貴重な文化遺産を長く後世に伝えていくことは、現代に生きるわたくしたちに与えられた責務であり、歴史を明らかにすることはよりよい未来を築くための手掛かりとなるものです。今後は本書が学術研究の発展に寄与するとともに、生涯学習の場に広く活用されることを願ってやみません。

最後になりましたが、発掘調査の実施から報告書の刊行に至るまで、文化財の保護に対する深いご理解を賜りました岡田益雄様をはじめ、調査に際してご指導、ご協力を頂きました方々、直接作業の労にあたられた皆様に衷心よりの感謝を申し上げます。

平成25年3月

本庄市教育委員会

教育長 茂木孝彦

# 例 言

1. 本書は、埼玉県本庄市日の出3丁目3720番地1他に所在する南御堂坂遺跡（No. 53 - 023）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、上里開発株式会社 代表取締役 岡田益雄氏が計画する高齢者向け住宅、デイサービス施設等の建設工事に伴い、事前の記録保存を目的として本庄市教育委員会が実施したものである。
3. 発掘調査は、南御堂坂遺跡の、約17㎡を対象として実施した。
4. 調査期間は以下の通りである。  
自 平成24年7月12日  
至 平成24年7月20日
5. 発掘調査担当者は、本庄市文化財保護課 太田博之・大熊季広・的野善行があたり、発掘調査には有限会社毛野考古学研究所 山本千春が調査員として専従した。
6. 整理調査期間は、以下の通りである。  
自 平成24年10月17日  
至 平成25年3月13日
7. 整理および報告書刊行にかかる業務は、有限会社毛野考古学研究所に委託した。
8. 本書の執筆は、Iを本庄市教育委員会文化財保護課が、II～VIを山本千春が担当し、編集した。
9. 本書に掲載した出土遺物、遺構・遺物の実測図ならびに写真等の資料は、掲載以外の資料を含め、本庄市教育委員会において保管している。
10. 発掘調査及び本書の作成にあたって下記の方々や諸調査機関により御助言・御教示を賜った。記して感謝いたします。（順不同、敬称略）  
金子彰男 坂本和俊 外尾常人 中沢良一 丸山 修 矢内 勲
11. 南御堂坂遺跡の発掘調査、整理調査および報告書刊行にかかる本庄市教育委員会の組織は以下のとおりである。

## 南御堂坂遺跡 発掘調査、整理・報告書刊行組織（平成24年度）

主体者	本庄市教育委員会
	教 育 長 茂木孝彦
事務局	事 務 局 長 関和成昭
	本庄市文化財保護課
	課 長 金井孝夫
	副 参 事 兼 課 長 補 佐 鈴木徳雄
	課長補佐兼埋蔵文化財係長 太田博之
主	幹 恋河内昭彦
主	査 大熊季広
	松澤浩一
主	任 松本 完
臨 時 職 員	的野善行

# 凡 例

1. 本書所収の全体図のX・Y座標値は世界測地系第IX系に基づく。単位はmである。全体図における方位針は座標北をさす。
2. 本調査における遺構名称は下記の記号を使用した。  
S I…住居跡、P…ピット
3. 本書に掲載の遺構図ならびに遺物実測図の縮尺は以下を原則とし、各挿図中にはスケールを付してある。  
【遺構図】 遺構全体図・個別遺構図… 1 / 60  
【遺物実測図】 土器… 1 / 4、土製品… 1 / 3
4. 遺構断面図の水準数値は海拔を示す。単位はmである。
5. 遺構断面図面中のスクリーントーンは地山を示す。
6. 遺物観察表に示した色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局）を使用して観察した。
7. 遺物観察表中の単位は、法量はcm、重さはgである。（ ）内の数値は復元値を示す。
8. 本書中の遺物観察表に示した記号は、以下のとおりである。  
A－法量、B－成形技法、C－整形・調整手法、D－胎土（材質）、E－色調、F－残存度、  
G－備考、H－出土位置（層位）
9. 本書掲載の図は、国土交通省国土地理院発行 1/25,000「本庄」及び「本庄市都市計画図 12」1 / 2,500 に加筆したものをを用いた。

# 目 次

序

例言

凡例

目次

挿図目次

挿表目次

写真図版目次

I	調査に至る経緯	1
II	地理的・歴史的環境	2
1	地理的環境	2
2	歴史的環境	2
III	調査の方法と経過	4
IV	基本層序	4
V	検出された遺構と遺物	5
1	遺跡の概要	5
2	竪穴住居跡	5
3	ピット	5
4	遺構外出土遺物	9
VI	まとめ	9

引用・参考文献

写真図版

報告書抄録

奥付

## 挿 図 目 次

第 1 図	埼玉県の地形図	第 5 図	1・2号住居跡、P-1・2
第 2 図	周辺の遺跡	第 6 図	1号住居跡出土遺物
第 3 図	基本層序	第 7 図	2号住居跡出土遺物
第 4 図	南御堂坂遺跡調査区域図	第 8 図	遺構外出土遺物

## 挿 表 目 次

表 1	1号住居跡出土遺物観察表(1)	表 3	2号住居跡出土遺物観察表
表 2	1号住居跡出土遺物観察表(2)	表 4	遺構外出土遺物観察表

## 写 真 図 版 目 次

写真図版 1	調査区全景(南から)		1・2号住居跡全景(南西から)
	1号住居跡遺物出土状態近景① (北東から)		1・2号住居跡掘り方(南西から)
	1号住居跡遺物出土状態近景② (南西から)	写真図版 2	測量風景
	1・2号住居跡遺物出土状態(南西から)		1号住居跡出土遺物
	2号住居跡(北西から)		2号住居跡出土遺物
			遺構外出土遺物

## I 調査に至る経緯

平成 22 年 7 月 26 日、上里開発株式会社代表取締役岡田益雄氏より本庄市日の出 3 丁目 3,720 番 1・2、3,725 番 3、3,726 番 1・2・3・4 の土地、2,778.36 m<sup>2</sup>に分譲用地造成の計画があり、これにかかる『埋蔵文化財の所在及びその取り扱いについて』の照会文書が、本庄市教育委員会に提出された。これを受け、市教育委員会は埼玉県教育委員会発行の『本庄市遺跡分布地図』をもとに、同地が埋蔵文化財包蔵地に該当しているかどうか、確認を行った。これにより、照会地には周知の埋蔵文化財包蔵地南御堂坂遺跡（県遺跡番号 54-023）が所在することが判明した。

南御堂坂遺跡では、過去に試掘・発掘調査の実績がなく、遺跡の詳細について不明な部分な点が多かったが、同一の地形上に隣接して存在する諏訪遺跡、薬師堂東遺跡等では、古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居跡が多く検出されていることから、これらの遺跡と同様の性格を有する集落遺跡であることが考えられた。

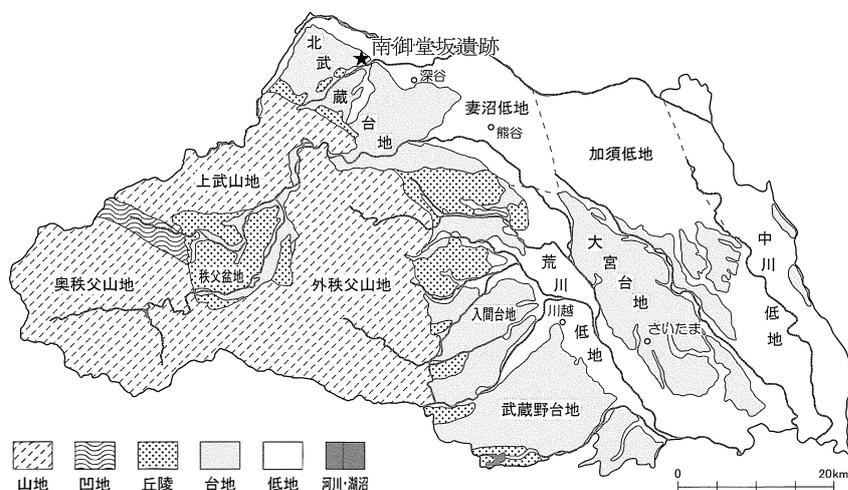
市教育委員会では、上記のような状況をふまえ、当該事業計画地について、遺跡保護のための基礎資料を得るために、試掘調査を行うこととし、平成 22 年 8 月 9 日から 8 月 17 日にかけて、現地調査を実施した。その結果、工事予定地のほぼ全面にわたって竪穴住居跡等の埋蔵文化財の所在を確認した。

その後、事業主体者により開発計画の変更が行われ、あらためて平成 24 年 4 月 19 日、上里開発株式会社代表取締役岡田益雄氏より、同地におけるサービス付き高齢者向け住宅及びデイサービス施設建設の計画があり、これにかかる『埋蔵文化財の所在及びその取り扱いについて』の照会文書が、本庄市教育委員会に提出された。

本庄市教育委員会は、先の試掘調査結果等をふまえ、事業主体者と協議を進め、その結果、施設建設部分の大半については、盛土等により埋蔵文化財を現状保存とするものの、エレベーター設置部分については、基礎部分の構造上、埋蔵文化財への影響が避けられず、当該部分に関しては、やむを得ず発掘調査を実施し、記録保存することとなった。

発掘調査は平成 24 年 7 月 12 日から平成 24 年 7 月 20 日の間に実施した。

(本庄市教育委員会事務局)



第 1 図 埼玉県の地形図

## II 地理的・歴史的環境

### 1 地理的環境

南御堂坂遺跡が所在する本庄市は埼玉県の北西部に位置し、人口8万人を超える埼玉県北部の中核都市である。市域北縁は利根川を挟み、群馬県伊勢崎市と境を接する。

本庄市の地形は、南西側の上武山地（陣見山・不動山）と児玉丘陵、市街地一帯に広がる本庄台地、利根川右岸に広がる低地から成る。本遺跡は、本庄市の北西部に広がる本庄台地上の北東端に占地する。本庄台地はJR本庄駅を中心とした市街地に広がり、洪積世末期に利根川の支流である神流川によって形成された扇状地性台地である。台地の縁辺部には元小山川が東流し、比高差6～10mの崖線が走り、かつてはその崖下に豊富な湧水がみられたという。扇中央部には、本庄市児玉町宮内地内を起源とする女堀川によって開析された沖積地が展開し、河川沿いでは自然堤防が発達する。本遺跡地の南東側には蛭川（新久城堀）が流下し、南西側には比高差4～5mの段丘崖線が発達し、北西側は小御堂坂の微低地となっており、一辺約400m程度の範囲で独立した台地上に本遺跡は立地し、地形は南西から北東に向けて緩やかに傾斜する。標高は52mほどである。

### 2 歴史的環境

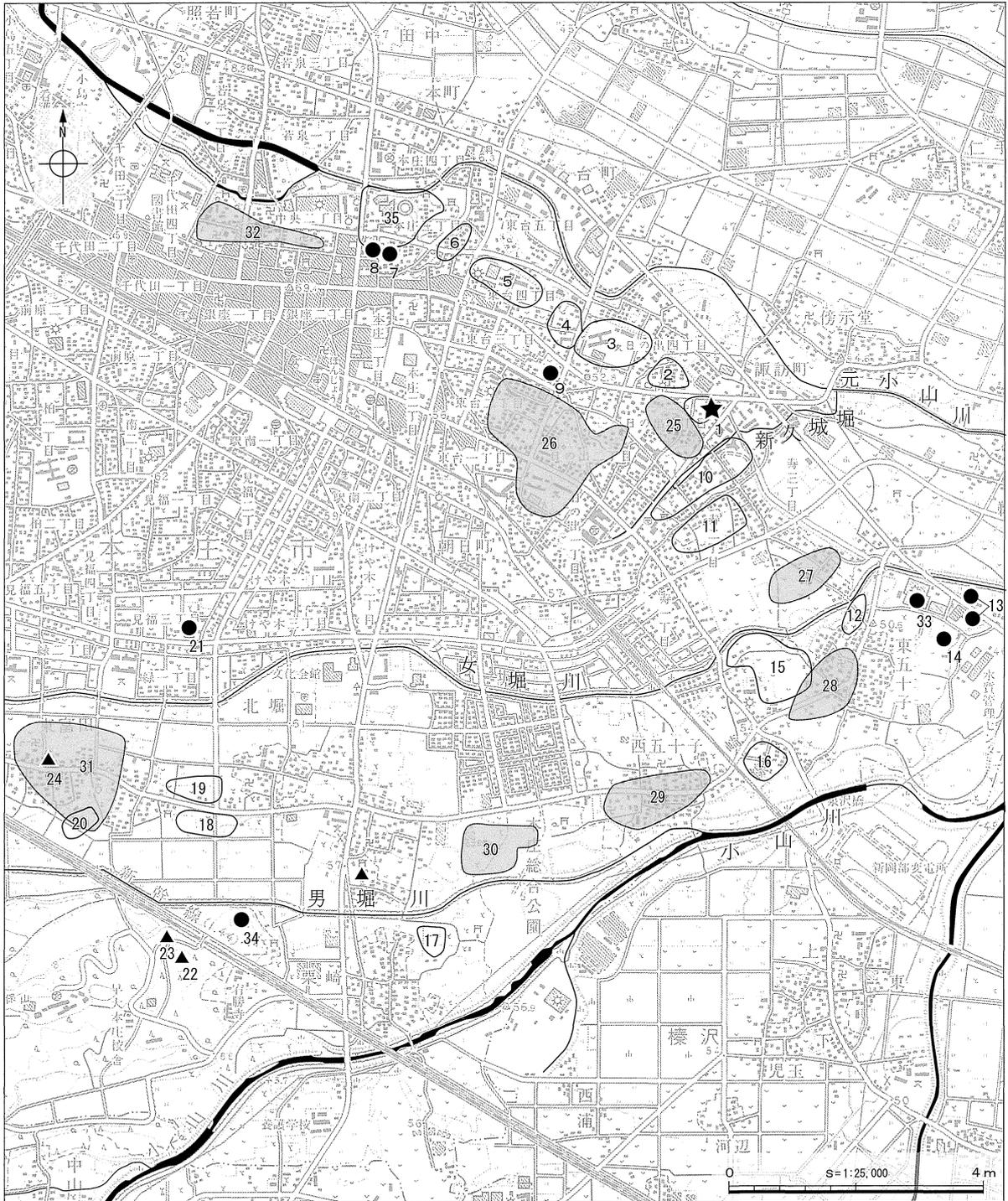
南御堂坂遺跡からは古墳時代の集落が確認されたため、ここでは本遺跡周辺における該期の遺跡について概観する。

集落跡は、前期では後張遺跡を中心とした下浅見・高関周辺地域などの微高地上に展開している。中期に入ると遺跡数が増加し、低地内の自然堤防上や微高地上の他、本遺跡が所在する本庄台地縁辺の段丘崖上にも集落が形成されるようになる。東五十子城跡遺跡（13）、諏訪新田遺跡（10・11）、薬師堂遺跡（4）、小島本伝遺跡などでみられ、集落形成は、おおむね後期まで継続する。なお、東五十子城跡遺跡では5世紀後半の住居跡から鉄製農耕具、玉類、砥石、紡錘車が出土していることや、西富田地区に所在する二本松遺跡、夏目遺跡、社具路遺跡などでは布留式系の甕が出土し、近隣地域よりいち早くカマドが導入されていることから、集落形成が急増した背景には、他地域から移住した集団が従来とは異なる水田経営や灌排水路の掘削等を行ったことによるその影響であると指摘されている。後期に入ると遺跡数はさらに増加し、特に女堀川左岸に位置する今井川越田遺跡、社具路遺跡、薬師元屋舗遺跡における住居軒数の増加は著しい。

古墳は、最古の4世紀後半に比定される鷲山古墳（前方後円墳）、これに後続する前山Ⅰ号墳（22、前方後円墳）が最大規模の首長墳として著名である。中期初頭には、粘土槨を持つ前山Ⅱ号墳（23、方墳）が確認されている。中期中葉以降は、首長墓と考えられる大・中型円墳が築造され、公卿塚古墳等の格子目叩きを施す埴輪を有する古墳があり、渡来系工人の移入が指摘されている。中期後半から終末期にかけては、多くの古墳群が築造され、本遺跡周辺でも御堂坂古墳群（25）やB種ヨコハケの円筒埴輪を持つ塚合古墳群（26）などがある。

埴輪窯跡は、赤坂埴輪窯跡（33）、宥勝寺北裏埴輪窯跡が知られる。なお、東五十子北町中遺跡（14）

では古墳時代の所産と想定される粘土採掘坑群が検出されており、赤坂埴輪窯跡との関連が示唆されている。



1. 南御堂坂遺跡
2. 御堂坂遺跡
3. 薬師堂東遺跡
4. 薬師堂遺跡
5. 天神林Ⅱ遺跡
6. 天神林遺跡
7. 城山遺跡
8. 城山遺跡Ⅱ
9. 本庄飯玉遺跡
10. 諏訪新田A～C遺跡
11. 諏訪新田D遺跡
12. 東五十子赤坂遺跡
13. 東五十子城跡遺跡
14. 東五十子北町中遺跡
15. 西五十子大塚遺跡
16. 西五十子台遺跡
17. 東本所遺跡
18. 久下前遺跡
19. 久下前東遺跡
20. 七色塚遺跡
21. 笠ヶ谷戸遺跡
22. 前山Ⅰ号墳
23. 前山Ⅱ号墳
24. 公卿塚古墳
25. 御堂坂古墳群
26. 塚合古墳群
27. 鶴森古墳群
28. 東五十子古墳群
29. 西五十子古墳(東群)
30. 西五十子古墳群(西群)
31. 東富田古墳群
32. 北原古墳群
33. 赤坂埴輪窯跡
34. 宥勝寺北裏埴輪窯跡
35. 本庄城址

第2図 周辺の遺跡

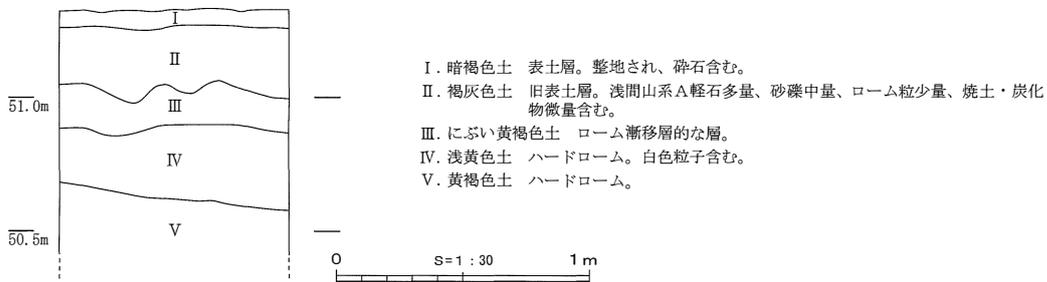
### Ⅲ 調査の方法と経過

発掘調査は、平成24年7月12日から平成24年7月20日にかけて実施した。表土掘削は試掘調査の成果等を参考に、遺構確認面をローム上面として掘り下げた。その後、ジョレン等を使用し、人力による遺構検出作業を行った。遺構の掘削にあたっては、土層観察用のベルトの設定および半截によって各遺構の埋没状況や構築状態の把握に努めた。遺構測量は、各遺構の平面図および断面図を縮尺1/20を基準として作成した。写真撮影は35mmモノクロフィルム、35mmカラーリバーサル、デジタルカメラを使用した。

整理作業は、平成24年10月17日から実施し、平成25年3月14日付けで報告書を刊行した。出土遺物の注記作業はインクジェットプリンタ、遺跡略称は「53-023」である。遺物の接合にはセメダインCを使用し、欠損部分はエポキシ系樹脂で補強した。

### Ⅳ 基本層序

基本層序は、調査区南東壁にトレンチを設定して確認した。Ⅰ層は近年の土地利用による堆積と考えられる。Ⅱ層は浅間山系A軽石を多量に含む旧表土層、Ⅲ層はローム漸移層あるいは類した層、Ⅳ・Ⅴ層は黄褐色ローム層で、遺構確認面はⅣ層上面である。なお、調査区北壁下のP-1底面では砂層が確認された。



第3図 基本層序



第4図 南御堂坂遺跡調査区域図

## V 検出された遺構と遺物

### 1 遺跡の概要

南御堂坂遺跡は、本庄市日の出地内の高齢者向け住宅、デイサービス施設等の建設工事に伴って発掘調査を実施したものである。調査地点は本庄台地北東縁辺部に位置し、御堂坂遺跡の南側にあたる。

今回の発掘調査において検出された遺構は、古墳時代中期末～後期の竪穴住居跡2軒、古墳時代後期以降のピット2基である。なお、発掘調査時に遺構名を付した土坑2基（SK-1・2）については、報告書作成時に検討した結果、2号住居跡に係るものと考えられたため、欠番とした。また、今回の調査面積は狭小なこともあり、本報告書では全体図と遺構図を兼ねて掲載した。

### 2 竪穴住居跡

#### 1号住居跡（S1-1）（第5・6図、表1・2/写真図版1・2）

住居跡の南東側が検出された。東壁はP-2と切り合い、南側は攪乱を受ける。平面形態は方形基調である。南壁は明瞭に確認されたが、東壁は2号住居跡と近接するため、やや不明瞭であった。規模は、東西2.68m、南北4.17m以上を測る。確認面からの深さは17cmである。床は、北半側でロームを主体とした貼床（7層）が施されていたが、南半側は地山ローム層で形成されていた。掘り方は北半側で2～14cmの掘り込みが確認された。柱穴は床面から1基（P1）が検出され、本遺構の柱穴と考えられる。P1の規模は66cm×54cmで、床面からの深さは51cmである。

遺物は覆土中から土師器の坏・甕の破片を主体に、須恵器は壺の口縁部片が僅少と、土錘が8点（10～17）出土した。この他、出土した土師器の中には紛れ込みと思われる他時期の土器片も含まれていた。本遺構の帰属時期は、出土遺物の観察から、6世紀後半と想定される。

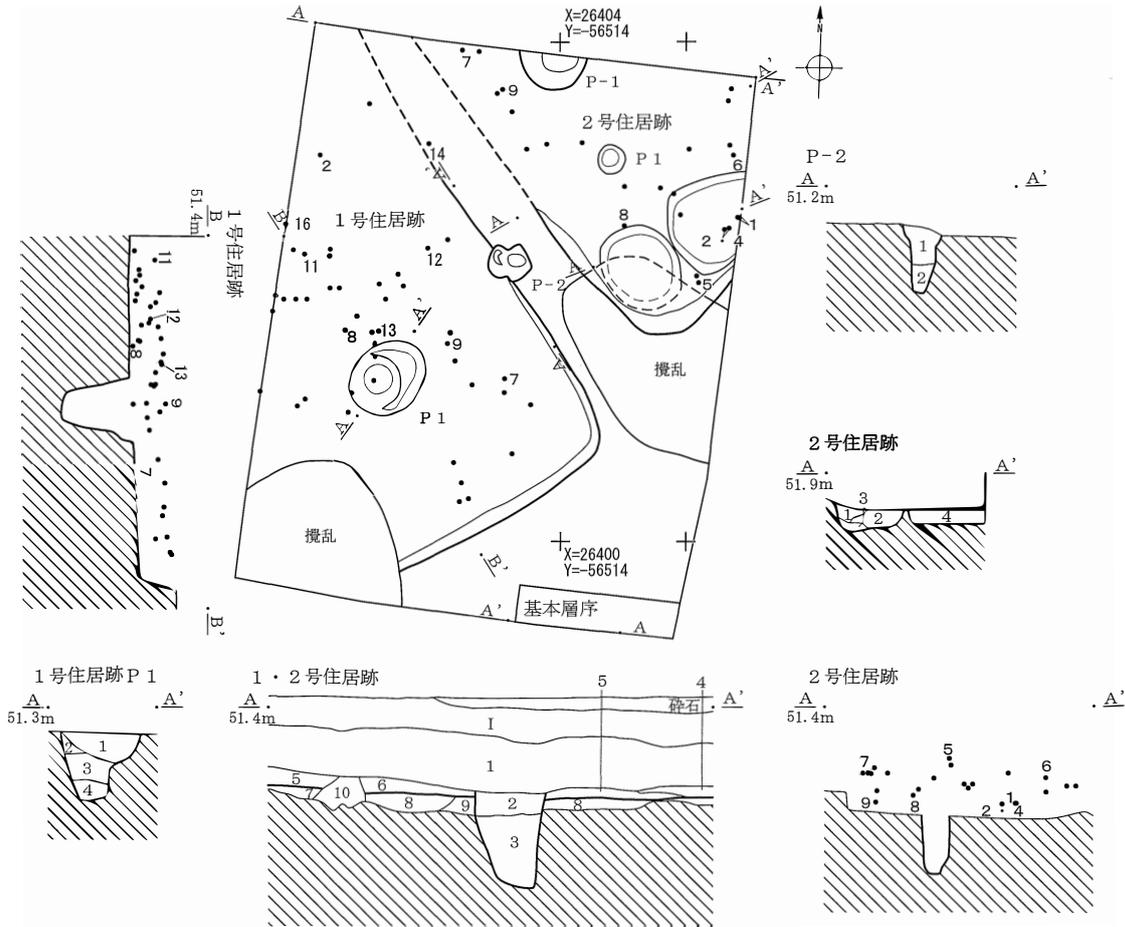
#### 2号住居跡（S1-2）（第5・7図、表3/写真図版1・2）

住居跡の南西側が検出された。中央寄りをP-2に壊され、南西側は上部で攪乱を受ける。平面形態は方形基調である。南東壁は明瞭に確認されたが、西壁は1号住居跡と近接するため、やや不明瞭であった。規模は、東西3.12m、南北2.05m以上を測る。確認面からの深さは30cmである。床は、ロームと暗褐色土による貼床（8・9層）が施される。掘り方は10cm程度の掘り込みが確認された。柱穴は床面から1基（P1）が検出され、本遺構の柱穴と考えられる。P1の規模は24cm×22cmで、床面からの深さは58cmである。

遺物は覆土中から土師器の坏・甕・壺の破片と、土錘2点（8・9）が出土した。本遺構の帰属時期は、出土遺物の観察から、5世紀末～6世紀初頭と想定される。

### 3 ピット（P-1・2）（第5図）

ピットは本遺跡内から2基（P-1・2）が確認された。調査区内から規則的な配列等は見られないが、その規模等から柱穴の可能性が考えられる。遺物は覆土中から出土していないため、各遺構の帰属時期は不詳である。



1号住居跡P1土層説明

1. 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック (φ 0.2~0.5cm) 中量、灰黄色粒少量、焼土・炭化物を微量含む。しまり・粘性ややあり。
2. 暗褐色土 灰黄色土 (φ 1.0~5.0cm) 多量、ローム粒中量、ロームブロック (φ 0.2~0.8cm) 少量、炭化物を微量含む。しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ 0.2~3.0cm) を多量に含む。しまり・粘性ややあり。
4. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ 0.2~3.0cm) 多量、砂礫を少量含む。しまり弱い。粘性ややあり。

2号住居跡土層説明

1. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ 0.2~1.0cm) 少量、焼土・炭化物を微量含む。しまり・粘性ややあり。
2. 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ 0.2~2.0cm) 中量、炭化物少量、焼土を微量含む。しまり・粘性ややあり。
3. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ 0.2~5.0cm) 中量、炭化物少量、焼土を微量含む。しまり・粘性ややあり。
4. 暗褐色土 ローム粒中量、ロームブロック (φ 0.2~2.0cm)・炭化物少量、焼土を微量含む。しまり・粘性あり。

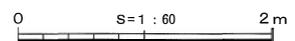
1・2号住居跡土層説明

1. 暗褐色土 ローム粒・焼土中量、ロームブロック (φ 0.2~0.8cm)・炭化物少量、浅間山系A軽石・砂礫を微量含む。しまり・粘性あり。
2. 暗褐色土 ローム粒中量、ロームブロック (φ 0.2~3.0cm)・焼土少量、炭化物を微量含む。しまり・粘性ややあり。
3. 褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ 0.2~1.0cm) 多量、礫 (φ 8.0cm) を微量含む。しまりやや弱い。粘性ややあり。
4. 暗褐色土 ローム粒中量、ロームブロック (φ 0.2~2.0cm) 少量、焼土・炭化物を微量含む。しまり・粘性ややあり。
5. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ 0.2~1.0cm) 少量、焼土・炭化物を微量含む。粘性・しまりややあり。

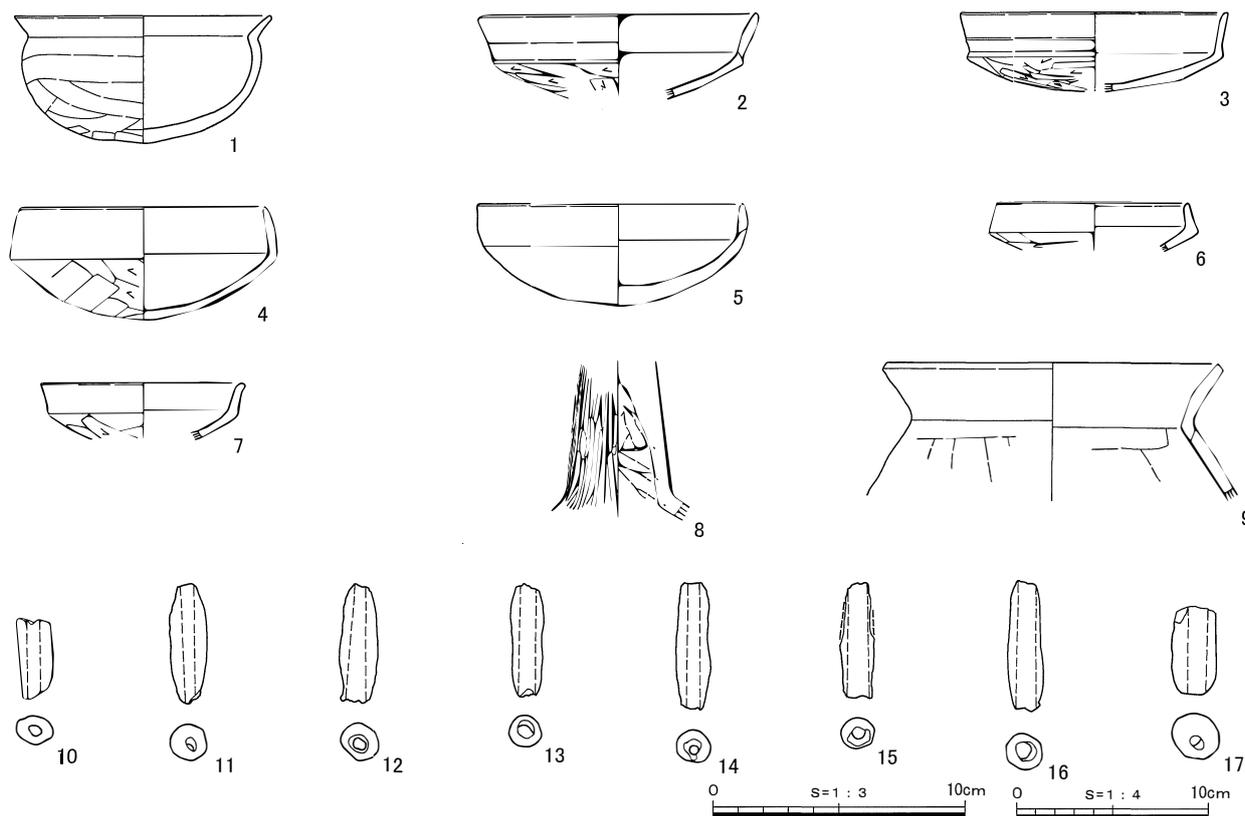
6. 褐色土 ローム粒多量、ロームブロック (φ 0.2~5.0cm) 中量、焼土・炭化物を微量含む。しまり・粘性ややあり。
7. 褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ 0.2~5.0cm) 多量、焼土・炭化物を微量含む。しまり・粘性あり。
8. 暗褐色土 ローム粒中量、ロームブロック (φ 0.2~1.0cm) 少量、焼土・炭化物を微量含む。粘性・しまりややあり。
9. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ 0.2~3.0cm) 大量、焼土・炭化物を微量含む。しまり・粘性ややあり。
10. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック (φ 0.2~1.0cm) 少量、炭化物を微量含む。しまり・粘性ややあり。

P-2土層説明

1. 黄褐色土 ローム主体に暗褐色土が少量混入。しまりやや弱い。粘性ややあり。
2. 黄褐色土 ソフトロームを主体とする。しまり弱い。粘性あり。



第5図 1・2号住居跡、P-1・2



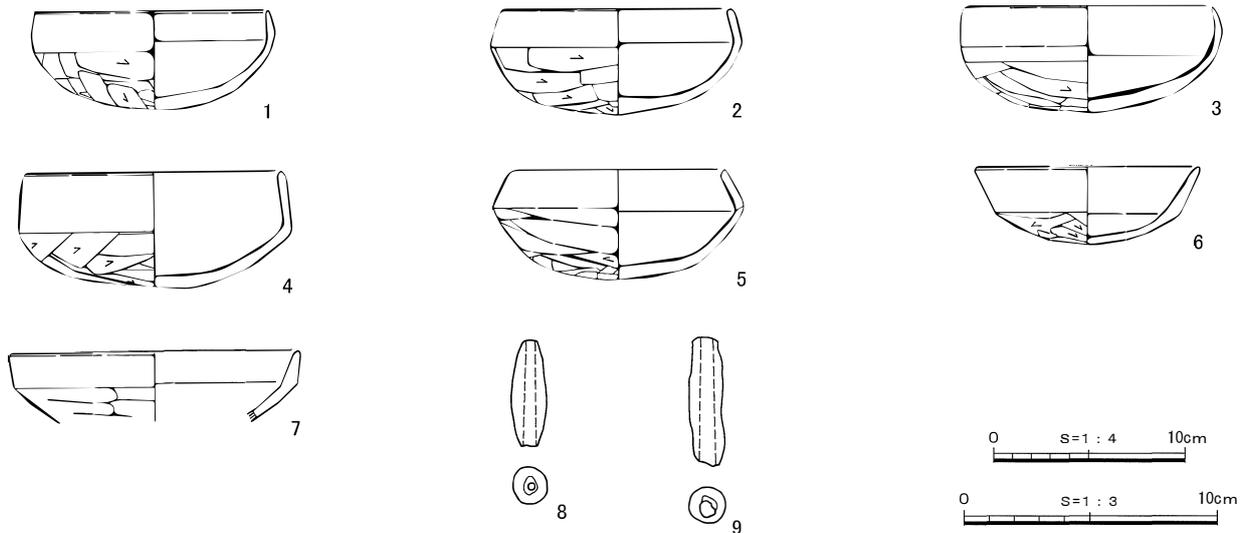
第6図 1号住居跡出土遺物

表1 1号住居跡出土遺物観察表(1)

1	坏	A. 口径13.5。器高6.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部～底部ケズリ後体部ナデ。内面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。D. 黒色鉱物・白色粒子。E. 内-にぶい赤褐色。外-明赤褐色。F. 口縁部～底部1/3。H. 覆土。
2	坏	A. 口径(14.8)。残存高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ、体部ナデ。D. 赤褐色粒・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 口縁部～体部1/5。H. 覆土。
3	坏	A. 口径(14.0)。残存高4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ、体部ナデ。D. 赤褐色粒・白色粒子。E. 内-灰褐色。外-褐灰色。F. 口縁部～体部1/4。H. 覆土。
4	坏	A. 口径13.0。器高5.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。内面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。D. 角閃石・石英・白色粒子。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部～底部3/4。H. 覆土。
5	坏	A. 口径(14.2)。器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。内面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。D. 雲母・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 口縁部～底部3/4。H. 覆土。
6	坏	A. 口径(10.2)。残存高2.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ、体部ナデ。D. 石英・赤褐色粒・白色粒子。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部～体部片。H. 床下。
7	坏	A. 口径(14.2)。器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。内面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。D. 雲母・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 口縁部～底部3/4。H. 覆土。
8	高坏	A. 残存高(8.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、脚部ナデ。内面、脚部ナデ。D. 石英・黒色粒・白色粒子。E. 内外-明赤褐色。F. 脚部。H. 覆土。
9	甕	A. 口径(17.4)。残存高7.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。内面、口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。D. 雲母・石英・黒色粒。E. 内-橙色。外-にぶい橙色。F. 口縁部～胴部片。H. 覆土。
10	土錘	A. 残存長3.2。幅10.1。厚さ1.1。重さ4.53。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 角閃石・赤褐色粒・白色粒子。E. にぶい橙色。F. 1/2。H. 覆土。
11	土錘	A. 長さ4.7。幅1.4。厚さ1.4。重さ7.47。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 黒色粒・白色粒子。E. 赤褐色。F. 完形。H. 覆土。
12	土錘	A. 長さ4.7。幅1.4。厚さ1.4。重さ6.94。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 黒色粒・白色粒子。E. にぶい褐色。F. 完形。H. 覆土。

表2 1号住居跡出土遺物観察表(2)

13	土錘	A. 長さ4.4。幅1.3。厚さ1.2。重さ5.59。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 片岩・白色粒子。E. にぶい黄褐色。F. 完形。H. 覆土。
14	土錘	A. 長さ5.0。幅1.3。厚さ1.3。重さ6.17。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 石英・白色粒子。E. 明赤褐色。F. 完形。H. 覆土。
15	土錘	A. 長さ4.5。幅1.3。厚さ1.2。重さ4.41。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 黒色粒子・白色粒子。E. 明赤褐色。F. 3/4。H. 覆土。
16	土錘	A. 長さ5.2。幅1.4。厚さ1.4。重さ6.88。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 黒色鉱物・石英・白色粒子。E. 橙色。F. 完形。H. 覆土。
17	土錘	A. 残存長3.4。幅1.8。厚さ1.8。重さ9.73。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 石英・チャート・赤褐色粒。E. 赤褐色。F. 1/2。H. 覆土。



第7図 2号住居跡出土遺物

表3 2号住居跡出土遺物観察表

1	坏	A. 口径12.4。器高5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部～底部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。D. 白色粒子。E. 内外一灰褐色。F. 口縁部～底部3/4。H. 覆土。
2	坏	A. 口径12.2。器高5.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部～底部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。D. 黒色粒・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
3	坏	A. 口径13.2。器高5.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部～底部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。D. 黒色粒・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 4/5。H. 覆土。
4	坏	A. 口径13.7。器高6.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部～底部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内一にぶい赤褐色。外一赤褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
5	坏	A. 口径11.3。器高5.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。D. 角閃石・赤色粒・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 口縁部～底部1/2。H. 覆土。
6	坏	A. 口径(11.9)。器高4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部～底部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。D. 角閃石・チャート・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 口縁部～底部1/3。H. 覆土。
7	坏	A. 口径(15.2)。残存高3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ、体部ナデ。D. 石英・チャート・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 口縁部～体部1/6。H. 覆土。
8	土錘	A. 長さ4.1。幅1.3。厚さ1.4。重さ6.97。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 片岩・赤褐色粒・白色粒。E. にぶい赤褐色。F. 完形。H. 覆土。
9	土錘	A. 長さ5.0。幅1.4。厚さ1.4。重さ8.44。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 赤褐色粒・白色粒子。E. 明褐色。F. 完形。H. 覆土。

#### 4 遺構外出土遺物（第8図、表4/写真図版2）

ここでは、表採や調査区一括資料、および出土した遺構には共伴しないと判断した資料のうち、3点を掲載した。1～3は1号住居跡の一括資料で、1・2は縄文土器片、3は弥生土器片である。この他、図化はしなかったものの、陶器の皿片や磁器の碗片がわずかに出土した。



第8図 遺構外出土遺物

表4 遺構外出土遺物観察表

1	縄文土器 深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、沈線による区画。刺突による列点文。D. チャート・石英・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 胴部片。G. 縄文時代中期中葉～後葉。H. S I - 1 覆土。
2	縄文土器 深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、LRの単節文。D. チャート・赤色粒。E. 内外一橙色。F. 胴部片。G. 縄文時代前期、諸磯a式。H. S I - 1 覆土。
3	弥生土器 壺	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、付加条1種。D. 石英・黒色粒子。E. 内一にぶい橙色。外一にぶい褐色。F. 胴部片。G. 弥生時代後期～末、二軒屋式。H. S I - 1 覆土。

## VI まとめ

南御堂坂遺跡は、四面を段丘崖および支谷によって開析された段丘に占地する。中山道を挟んだ北側には御堂坂遺跡が占地し、南西側には御堂坂古墳群が立地する。これまでの確認・調査により、古墳時代後期から奈良・平安時代の集落跡および群集墳（5基）が確認されている。今回調査した南御堂坂遺跡では、調査地がわずか17㎡という狭小な範囲であったが、古墳時代中期末から後期に帰属する竪穴住居跡が一部切り合うような状態で2軒検出され、さらには、調査区および住居跡の覆土中から7世紀代に比定される土器片が出土しており、本調査地における遺構密度の高さが看取される。また、事前に行われた試掘調査において古墳時代後期から奈良・平安時代の集落跡が確認されており、御堂坂遺跡と同様の集落展開であることが想定される。しかし、今回の調査によって古墳時代中期末に比定される住居跡が確認されたことから、集落形成開始時期が古墳時代後期とされる御堂坂遺跡を遡る中期（5世紀）となる可能性を示唆する資料提示ができたものと考えられる。また、特筆されることとして、今回検出された2軒の住居跡から土錘が10点出土した。同じく本庄台地の北縁辺に占地する本庄城跡で163点、城山遺跡から8点出土しており、段丘崖に沿うように占地する集落跡からは比較的多く出土するものと考えられる。

今回は調査範囲の制限もあり、当該地域移周辺の様相を明らかにすることが課題として残った。集落変遷や土地利用の解明については、今後の調査・研究に期待するところが大きい。

#### 【引用・参考文献】

- 本庄市史編集室編 1976『本庄市史 資料編』本庄市  
 本庄市史編集室編 1986『本庄市史 通史編Ⅰ』本庄市  
 松本完 2002『市内遺跡発掘調査報告書—御堂坂第1号墳の調査—』本庄市埋蔵文化財調査報告書第24集  
 宮本久子 2009『塚合古墳群Ⅱ』本庄市埋蔵文化財調査報告書第18集  
 水谷貴之 2012『城山遺跡Ⅱ—第2地点の調査—』本庄市埋蔵文化財調査報告書第30集  
 石丸敦史 2009『薬師元屋鋪遺跡Ⅱ—第2地点第2次調査—』本庄市埋蔵文化財調査報告書第17集

# 写 真 图 版



調査区全景 (南から)



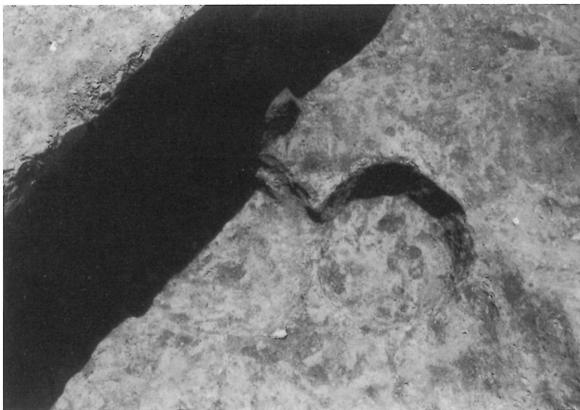
1号住居跡遺物出土状態近景① (北東から)



1号住居跡遺物出土状態近景② (南西から)



1・2号住居跡遺物出土状態 (南西から)



2号住居跡 (北西から)



1・2号住居跡全景 (南西から)

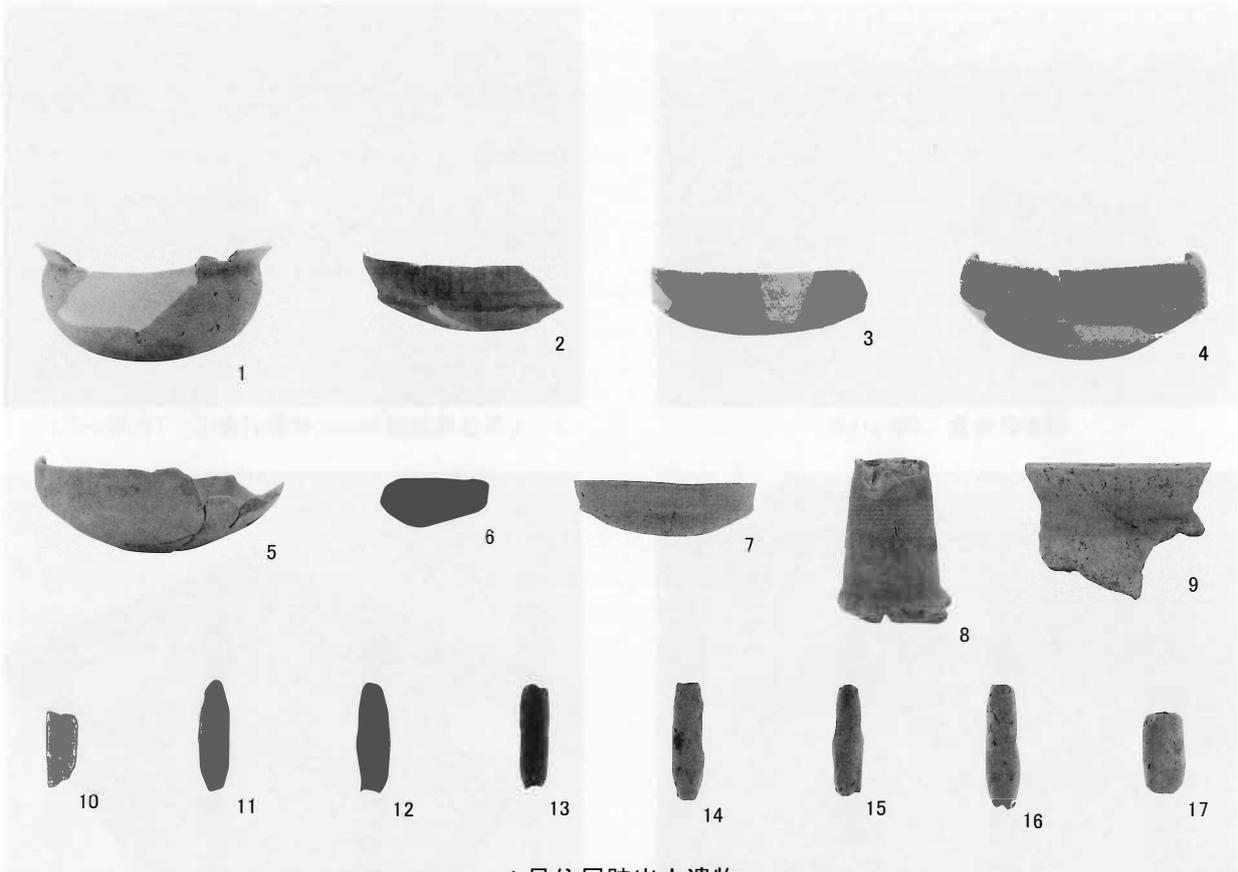


1・2号住居跡掘り方 (南西から)

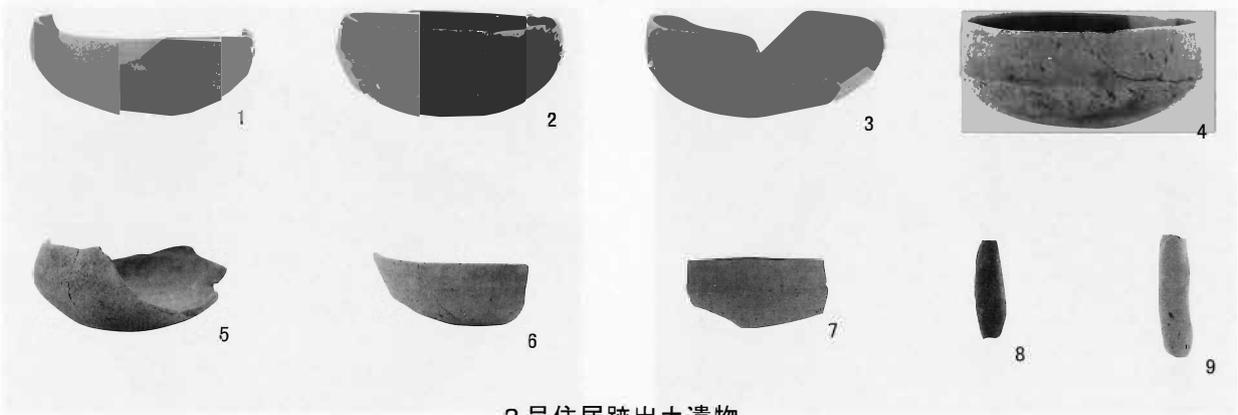


測量風景

写真図版 2



1号住居跡出土遺物



2号住居跡出土遺物



遺構外出土遺物

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	みなみみとごかいせき							
書名	南御堂坂遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	本庄市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第35集							
編著者名	山本千春							
編集機関	本庄市教育委員会							
所在地	〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号 Tel. 0495-25-1185							
発行年月日	西暦2013(平成25)年3月14日							
所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
みなみみとごかいせき 南御堂坂遺跡	まいたまけんほんじょうし 埼玉県本庄市 ひでまち3丁目 3720番地1他	市町村	遺跡 番号	36° 14' 11"	139° 12' 17"	20120712 ～ 20120720	約17㎡	高齢者向け住宅、 デイサービス施 設等の建設工事 に伴う発掘調査
		112119	54-023					
所収遺跡	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
南御堂坂遺跡	集落跡	古墳時代		竪穴住居跡 ピット	2軒 2基	土師器・須恵器・土製品		古墳時代中期末 ～後期の集落跡。

---

本庄市埋蔵文化財調査報告書 第35集

**南御堂坂遺跡**

---

平成25年3月7日 印刷

平成25年3月14日 発行

発行／本庄市教育委員会

〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号

電話 0495-25-1185

印刷／朝日印刷工業株式会社